

文部科学省 新規採用職員入省式

藤原次官が訓示「皆さんの志が文科行政進める」

文部科学省は4月1日、令和7年度文部科学省新規採用職員入省式を文科省第2講堂で執り行った。今年度は、総合職33名(うち既入省者1名)、一般職33名(同2名)の計66名が入省した。

入省式では、藤原章夫文科事務次官を前に入省者代表が服務の宣誓を行い、続いて入省者を代表して市原玲奈さんが挨拶。市原さんは「文部科学省が所管する教育、科学技術、スポーツ、文化芸術の各分野は、人を育て、人の夢や希望を広げ育むための営みであり、全ての人の自己実現に欠かせないものです。人々や社会の未来を創る上で重要な役割を担う文部科学省の職員として今日より晴れてスタートできることを上なく光栄に思います。私たちは覚悟と熱い思いを持ち、これからこの国の様々な課題に立ち向かいます。よりよい社会、未来のために議論を重ね、常に最善の方法を生み出せるよう全力を尽くします。至らぬ点も多いかと思いますが、文部科学省職員として少しでも貢献できるよう精一杯精進してまいります。何卒ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。我が国の未来を担う自覚と誇りを持ち、初心を忘れず真摯に職務にまい進することをここに誓います」と述べた。

最後に、藤原次官が入省者に訓示し、「こ



「ともに頑張ろう」と入省者を激励する藤原事務次官(文科省第2講堂)

れから良い仕事をして、また国や地域、さらには世界の発展に貢献して、公私ともに充実した人生を送っていただきたい」と語った。

藤原事務次官の訓示

「本日入省式を迎えられた皆さま、誠にありがとうございます。心から歓迎します。今日が皆さま方のキャリア人生の輝かしい第一歩となります。これから良い仕事をして、国や地域、さらには世界の発展に貢献をして、公私ともに充実した人生を送っていただきたいと思ひます。

皆さまには今日この日を迎えるにあたって胸に抱えている志があると思ひます。どうぞそれをしっかりとこの先40年前後にわたる公務員人生の中で忘れずに抱いていたいただきたいと思ひます。色々な困難があるなかで、時として忘れそうになることがあるかと思ひますが、そうしたときに必ず助けてくれる仲間がいると思うので、それを信じて前に進んでいってほしいと思ひます。

ただ、私も行政官は理想だけではなく、結果を出して初めてその仕事を果たしたことになると思います。いくら理想があっても現実社会を変えられなければ、その理想は意味をなさないわけです。そうした現実を変えていくという意志をしっかりとぶつけることが非常に重要です。

皆さま方の『何かを変えたい』、あるいは『何かを成し遂げたい』、そうした志とパッションが文部科学行政をさらに進めていただけるものと大いに期待しています。今日から一緒に頑張りますよ！」



藤原事務次官(左)に代表挨拶を述べる入省者代表